

「審美補綴に必要な天然歯形態と色彩表現」

片岡 繁夫

自然で美しい調和のとれた顔貌および口腔をつくるためには、天然歯の「形態」と「色彩」を再現することが必要である。

「形態」においては、歯牙の大きさ、長さ、歯列での歯牙の位置関係が大切である。さらに歯牙の「質感」を表現する、「表面性状」を再現することも大切である。患者の顔貌に調和する歯牙形態およびスマイルライン(歯牙の位置関係)は一つのパターンに限られたことではなく、様々な組み合わせが考えられる。

最終補綴物の決定は、診断用模型およびプロビジョナルレストレーションにおいて検討を重ね、顔貌との自然な調和を作り出すことが、審美補綴において最も大切である。

「色彩表現」は天然歯にみられる層構成による色彩を知ることが大切であり、象牙質とエナメル質の層構成を再現することで、歯牙の色彩は再現できる。

ラミネートベニア・プレスセラミックス・ジルコニアクラウン・インプラント補綴を含めた症例にて、審美補綴において天然歯形態と色彩表現の大切さをお話します。